

## 株式会社アシックス

評価日：2021年11月5日

## サステナビリティ・リンク・ボンド

ESG推進室

担当アナリスト：篠原 めい

格付投資情報センター（R&I）は資金調達者をアシックスとするサステナビリティ・リンク・ボンドについて、国際資本市場協会（ICMA）の「サステナビリティ・リンク・ボンド原則」に適合していることを確認した。オピニオンは下記の見解に基づいている。

## ■オピニオン概要

## (1) KPI（Key Performance Indicator）の選定

- ・ アシックスは KPI として「CDP<sup>1</sup>気候変動」の最終スコアを選定した。
- ・ KPI である CDP 気候変動の最終スコアはアシックスの気候変動対応を定量的・定性的なアプローチから網羅している。気候変動対応はアシックスの重要課題であり、サステナビリティ戦略によってアシックスの経営に組み込まれている。
- ・ アシックスは「気候変動への対応」を経営上の重要課題と捉えている。アシックスによれば、社名の由来となった創業哲学「Anima Sana In Corpore Sano（健全な身体に健全な精神があれかし）」は全事業活動と結びついており、「人々がスポーツを通じて心身ともに健康で幸せな生活を実現するためには、何よりも健やかな地球環境が必要」としている。
- ・ アシックスは重要課題である「気候変動への対応」をサステナビリティ戦略によって事業活動全体と関連付けている。サステナビリティ戦略の根幹は「Sound Mind, Sound Body（心身の健康の実現）」であるとし、「People（事業活動を通して、人々の心身の健康に貢献）」と「Planet（運動・スポーツができる地球環境を守る）」の両面からサステナビリティを推進している。主要な戦略目標として、2023年に全ての一次委託先工場で国際的及びアシックスの CSR 要件を満たすこと、2030年に温室効果ガス排出量（Scope1・2・3）を2015年比で63%削減すること、2050年に温室効果ガスの排出を実質ゼロとすることの3点を掲げている。
- ・ 2021年になって新たに策定した温室効果ガス排出量削減目標では従来の「2.0°C」（Scope3）及び「Well Below 2.0°C」（Scope1・2）から「1.5°C」（Scope1・2・3）へと大幅に目標水準を引き上げており、国際イニシアチブの SBTi<sup>2</sup>より認定を受けている（2021年6月）。Scope1・2については主として事業所での使用電力を100%再生可能エネルギーに切り替える。Scope3については一次生産委託先工場におけるエネルギー使用量を50%削減し、さらに使用電力の85%を再生可能エネルギーに切り替えていく方針だ。

## (2) SPT（Sustainability Performance Target）の特定

- ・ SPT は 2025 年の CDP 気候変動でリーダーシップレベルを維持する（A-以上を維持）ことである。
- ・ CDP によれば、2020 年の「テキスタイル&ファブリック」グループでリーダーシップレベルに到達

<sup>1</sup> CDP は世界最大規模の情報開示システム。2020 年は運用資産総額 106 兆米ドルに達する 515 の機関投資家と、調達規模で総額 4 兆米ドルに達する大手購買企業がサプライヤーに CDP を通じた開示を求めた。世界の時価総額の 50%以上を占める約 9,600 社以上の企業が CDP を通じて環境データを開示している。

<sup>2</sup> SBTi はサイエンス・ベースド・ターゲット・イニシアチブの略。企業の GHG 削減目標が科学的な根拠と整合したものであることを認定する国際的なイニシアチブ。気候変動対策に関する情報開示を推進する機関投資家の連合体である CDP、国際環境 NGO の世界資源研究所（WRI）と世界自然保護基金（WWF）、国連グローバル・コンパクト（UNGC）の 4 団体が 2014 年 9 月に設立し、現在もこの 4 団体が事務局となって運営している。5~15 年先を目標年として企業が設定する GHG 排出削減目標が、世界の気温上昇を産業革命前より 2°C を十分に下回る水準（Well Below 2°C）に抑えるか、または 1.5°C に抑える水準と整合的であることを認定している。

した企業は 33%であった。また平均スコアは同グループ内で B、アジア地域内で D、世界で C であった。SPT はこれらの平均的なパフォーマンスレベル対比でも野心的な水準といえる。

- ・ アシックスの最終スコアは 2016 年から 2019 年にかけて B で横ばいに推移した後、2020 年に初めてリーダーシップレベルの A- を獲得した。CDP は気候変動対応の情報開示と実践への国際的な要請を受けて質問内容とスコアリング基準を毎年改訂しており、その中で閾値を調整することもある。リーダーシップレベルを維持するにはアップデートされていく国際レベルのベストプラクティス<sup>3</sup>に挑戦し続ける不断の改善努力を要する。
- ・ アシックスは SPT の達成に向けて、特に「事業戦略・財務計画」と「エネルギー」に関する取り組みを強化していく。具体的には、事業所で再生可能エネルギー由来の電力の導入比率を高めるなど、気候関連リスクと機会を踏まえた低炭素移行計画の策定及び公表に向けた検討などを進めていく。アシックスは気候変動対応の一環として、2019 年に「気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)」提言に賛同し、気候変動が事業に与えるリスクと機会の両面についてガバナンス・戦略・リスク管理・指標と目標の観点から情報開示を進めてきた。また 2020 年 10 月からは事業活動での使用電力を 100%再生可能エネルギー化することを目指す国際イニシアチブ「RE100」に加盟し取り組みを推進してきた。アシックスはこれらの取り組みを強化し、SPT の達成を目指すとの考えだ。

### (3) 債券の特性

- ・ 本債券は 2026 年 12 月末の償還を予定しており、SPT については 2025 年の実績をもって達成状況を判定する。SPT を達成できなかった場合、債券発行額の 0.1%に相当する排出権 (CO<sub>2</sub>削減価値をクレジット・証書化したもの) を購入する。サステナビリティ委員会または同等の会議体が SPT 未達成の要因を精査したうえで排出権を選定・決定し、取締役会へ報告する。現時点の候補としては、例えば J-クレジット、グリーン電力証書、非化石証書、I-REC が想定される。
- ・ ただし、排出権購入契約における不可抗力事項等 (取引制度の規則等の変更や排出権の移転に係るシステム障害等) が発生した場合、本債券の償還までに債券発行額の 0.1%相当額を寄付する。サステナビリティ委員会または同等の会議体が SPT 未達成の要因を精査したうえで寄付先を選定・決定し、取締役会へ報告する。寄付先は環境保全活動を目的とする公益社団法人・公益財団法人・国際機関・自治体認定 NPO 法人・地方自治体やそれに準じた組織とする。
- ・ 債券の特性を定義づける KPI、SPT、排出権購入または寄付に関する詳細は債券の訂正発行登録書及び発行登録追補書類に明記され、法的効力を有している。本債券のキャッシュフローは SPT の判定結果と連動し、アシックスの経済的インセンティブとして機能する。本債券の財務・構造的特性は、重要課題である「気候変動への対応」に対するアシックスのコミットメントを強化している。

### (4) レポーティング

- ・ アシックスは年 1 回、KPI の実績を SPT 達成に向けた取り組みとともにウェブサイトで報告する。なお、CDP は年 1 回、「CDP 気候変動レポート」の中で回答企業の最終スコアを開示しており、KPI の実績は CDP を通じてすべてのステークホルダーが入手可能な情報となっている。
- ・ 判定結果の報告は 2026 年 8 月末までに実施する予定である。排出権を購入する場合、排出権の候補と選定理由、購入予定額を報告に含める (寄付を実施する場合は、寄付先の名称及び選定理由、寄付額、寄付の実施予定時期を報告に含める)。
- ・ 排出権を購入した場合、統合報告書、サステナビリティレポートまたはウェブサイトにて本債券の名称とともに排出権の名称、移転日、購入額を開示する (寄付を実施した場合は寄付先の名称、寄付額、寄付の実施時期を開示する)。
- ・ 本債券の発行時点で予見し得ない状況が発生し、KPI の定義や SPT の設定を変更する必要性が生じた場合、適時に変更事由や再計算方法を含む変更内容を開示する予定である。

### (5) 検証

- ・ 外部の第三者である格付投資情報センターはアシックスの開示内容を検証し、2026 年 8 月末までに判定結果の検証報告書を公表する予定である。なお、CDP 気候変動の最終スコアは公開情報であることから、すべてのステークホルダーにとって容易に検証が可能である。

<sup>3</sup> リーダーシップレベルの評価を得るにはリーダーシップポイントを獲得する必要がある。スコアリング基準におけるリーダーシップポイントとは、CDP が求める国際レベルのベストプラクティスを反映した得点である。具体的には、企業が気候変動に関連するリスクと機会を完全に理解し、リスクの低減と機会の最大化のための戦略を策定し実行している、温室効果ガス排出量を検証し、全社的な目標を達成するために排出量削減計画を導入している、といった行動要件となっている。

## アシックスの概要

神戸発祥の大手スポーツ用品メーカー。グローバルな売上規模、ブランド認知度や事業展開力といった点において上位メーカーとして位置付けられる。研究開発力や技術力を背景とする機能性の高さに優位性がある。主力とするランニングシューズは主要先進国（米国、欧州、日本、豪州）で高いシェアを占めるなど国内外の顧客層から支持を得ている。生産委託先工場は東南アジアを中心とする世界 20 カ国以上に広がり、その数は 150 を超える。責任ある企業行動の一環として、サステナブルアパレル連合（SAC）や国際労働機関（ILO）などのグローバル基準を先駆的に取り入れたサプライチェーンマネジメントプログラムを実施している。

## 1. KPI の選定

評価対象の「KPI の選定」は以下の観点でサステナビリティ・リンク・ボンド原則に適合している。

### (1) KPI の概要

- ・ アシックスは KPI として「CDP 気候変動」の最終スコアを選定した。KPI である CDP 気候変動の最終スコアは、企業の気候変動対応を定量的・定性的なアプローチから網羅的に評価した指標である。
- ・ CDP は企業回答を（ウェイト<sup>4</sup>の大きい順に）①スコープ 1・2、②削減目標、③ガバナンス、④リスク管理プロセス、⑤事業戦略・財務計画、⑥リスク開示、⑦エネルギー、⑧機会開示、⑨削減活動、⑩スコープ 3、⑪バリューチェーン協働、⑫その他の計 12 のスコアリングカテゴリーにグループ化して採点している。CDP は最終スコアと各カテゴリーの得点結果を各業界平均とともにフィードバックし、スコアの改善を促している。
- ・ CDP は企業の気候変動対応を「情報開示」、「認識」、「マネジメント」、「リーダーシップ」（最上位）の 4 段階の異なる採点基準によって評価する。下位段階のスコアが一定の閾値を超えないとより上位の評価基準に進めない仕組みで、最後に到達した段階で最終スコアが決まる。情報開示レベルでは企業の開示度合を評価し、認識レベルでは企業が自社の事業にかかわる環境問題やリスク、その影響をどの程度評価しようとしているかを測っている。マネジメントレベルでは環境問題に対する活動や方針、戦略をどの程度策定し実行しているかを評価している。さらにリーダーシップレベルでは企業が環境マネジメントにおけるベストプラクティスを実践しているかどうかを評価している。
- ・ リーダーシップレベルの評価を得るにはリーダーシップポイントを獲得する必要がある。スコアリング基準におけるリーダーシップポイントとは、CDP が求める国際レベルのベストプラクティスを反映した得点である。具体的には、企業が気候変動に関連するリスクと機会を完全に理解し、リスクの低減と機会の最大化のための戦略を策定し実行している、温室効果ガス排出量を検証し、全社的な目標を達成するために排出量削減計画を導入している、といった行動要件となっている。
- ・ CDP は質問内容とスコアリング基準を毎年改訂し、公表している。CDP は基本的に企業からの回答のみに依拠してスコアリングを実施しており、データの質や正確性の観点から回答内容を検証しているわけではないが、可能な限り完全で正確な回答を企業に要請している。企業の回答内容は全 CDP 署名投資家に共有される。

### (2) KPI の重要性

#### ① 重要経営課題（マテリアリティ）

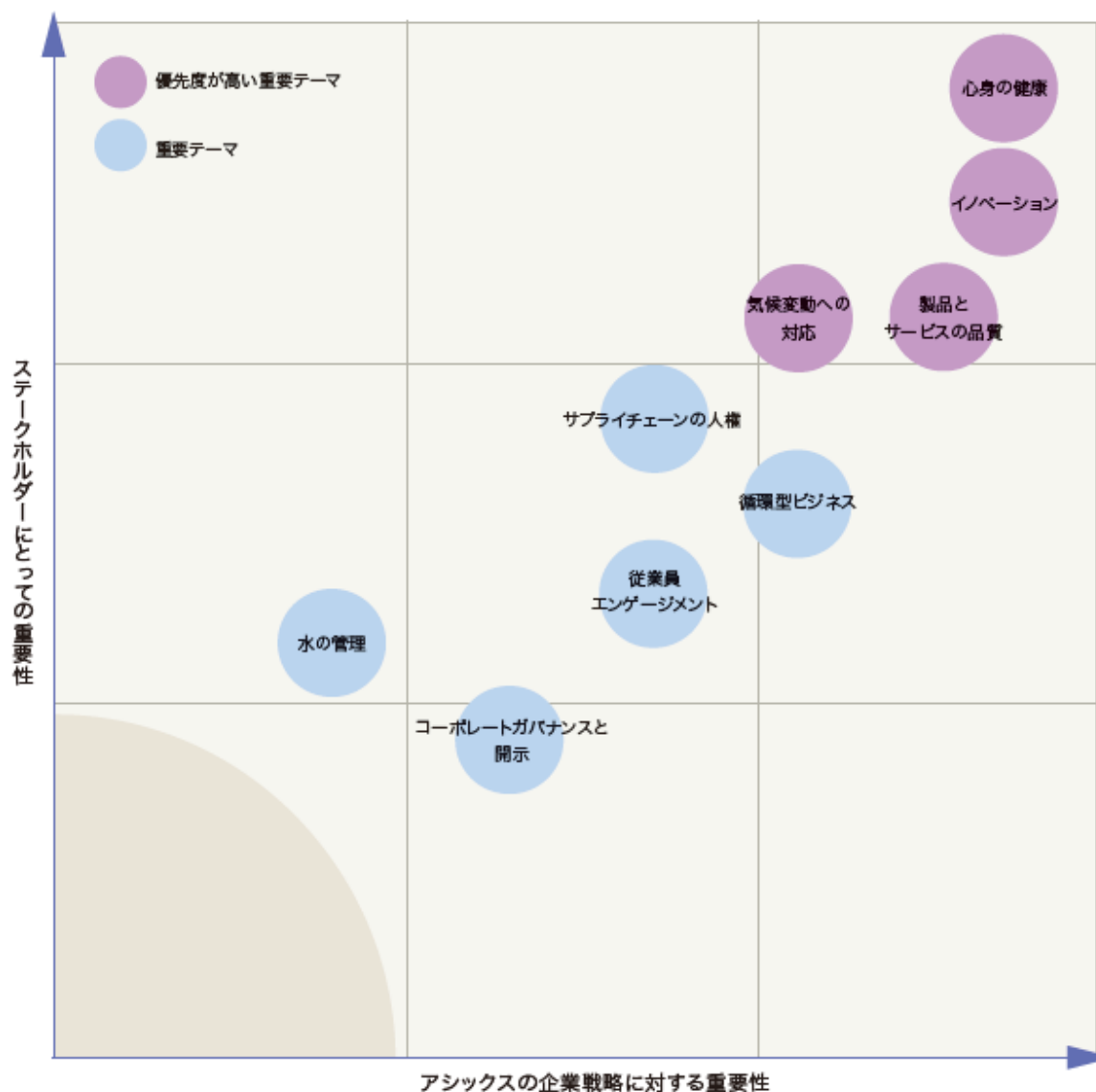
- ・ アシックスは「気候変動への対応」を経営上の重要課題と捉えている。アシックスによれば、社名の由来となった創業哲学「Anima Sana In Corpore Sano（健全な身体に健全な精神があれかし）」は全事業活動と結びついており、「人々がスポーツを通じて心身ともに健康で幸せな生活を実現するためには、何よりも健やかな地球環境が必要」としている。
- ・ アシックスは GRI スタンダード<sup>5</sup>を参照のうえステークホルダー及び事業にとって重要なテーマを特定し、「マテリアリティ評価プログラム」を実践している。重要テーマの優先度に関して外部のステークホルダー（消費者、取引先、サプライヤー、投資家、NGO、業界団体など）にインタビューやアンケートを実施し、社外の専門家による意見も取り入れながら検討する。サステナビリティ委員会での審議を経て、最終的に 9 つの重要テーマとその優先度が下図の通り決定されている。

<sup>4</sup> マネジメントレベル以上の評価では、スコアリングカテゴリー間の相対的な重要性を最終スコアに反映するため、各カテゴリーの得点にウェイトによる重みづけを適用している。

<sup>5</sup> GRI はグローバル・レポーティング・イニシアチブの略。サステナビリティ報告書のガイドライン「GRI スタンダード」を制定している国際的な非営利団体。

- ・ アシックスは重要課題である「気候変動への対応」をサステナビリティ戦略によって事業活動全体と関連付けている。サステナビリティ戦略の根幹は「Sound Mind, Sound Body（心身の健康の実現）」であるとし、「People（事業活動を通して、人々の心身の健康に貢献）」と「Planet（運動・スポーツができる地球環境を守る）」の両面からサステナビリティを推進している。
- ・ 主要な戦略目標として、2023年に全ての一次委託先工場で国際的及びアシックスのCSR要件を満たすこと、2030年に温室効果ガス排出量（Scope1・2・3）を2015年比で63%削減すること、2050年に温室効果ガスの排出を実質ゼロとすることの3点を掲げている。なお、「中期経営計画2023」では、「事業活動を通じたサステナブルな社会の実現」を目指し、バリューチェーン全体で、人権・労働問題に配慮した責任ある調達を進めると同時に、循環型モノづくりの指針によるCO<sub>2</sub>排出量の削減を図るとしている

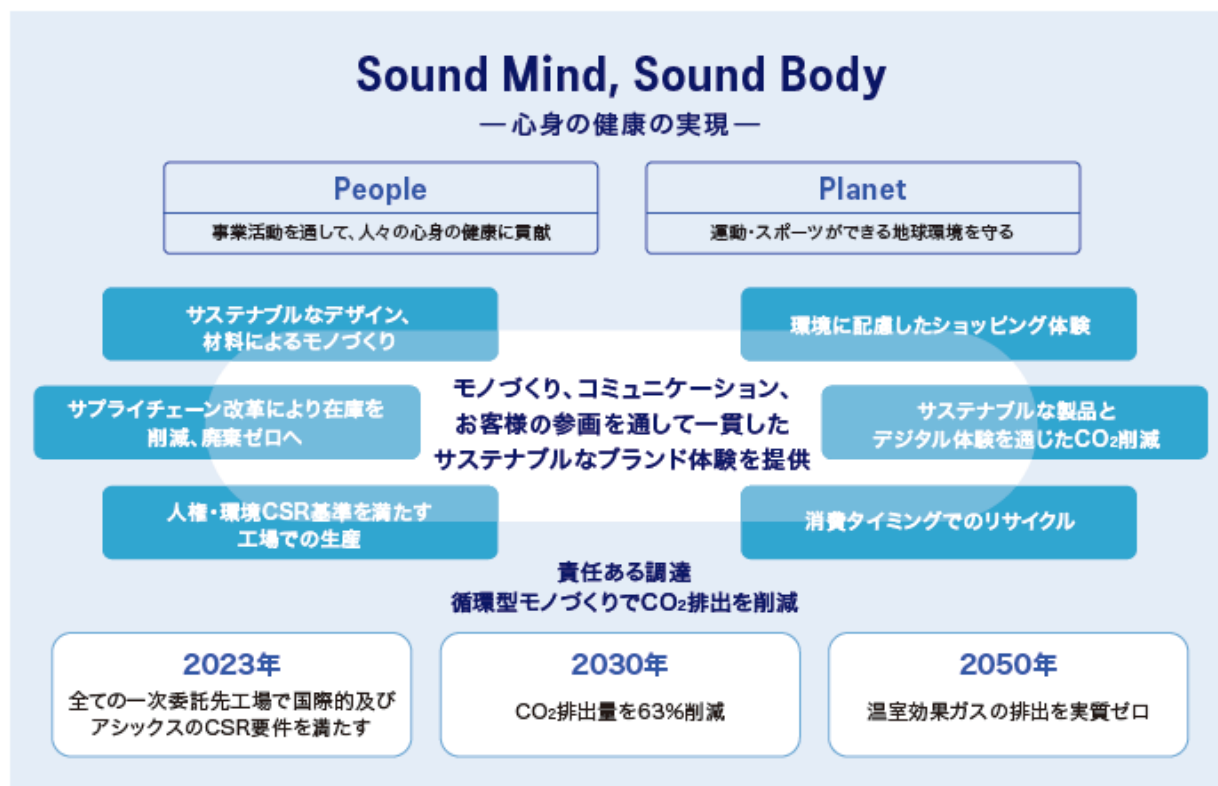
■ マテリアリティ評価プログラム



[出所：ASICS 統合報告書 2020（2020年12月期）より抜粋]



## ■ サステナビリティ戦略



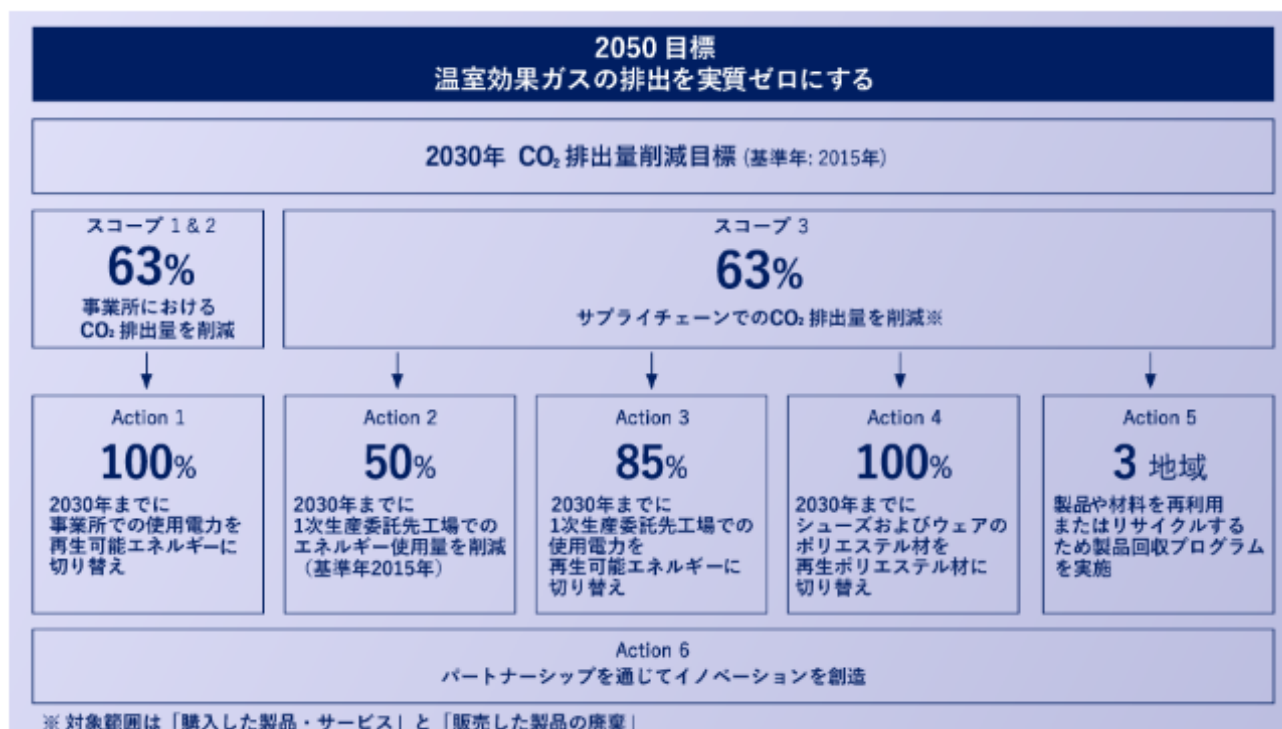
[出所：ASICS 統合報告書 2020（2020年12月期）より抜粋]

## ② KPIの重要性

- KPI である CDP 気候変動の最終スコアはアシックスの気候変動対応を定量的・定性的なアプローチから網羅している。気候変動対応はアシックスの重要課題であり、サステナビリティ戦略によってアシックスの経営に組み込まれている。
- アシックスは「気候変動への対応」の取り組みとして、温室効果ガスの排出を実質ゼロにするとの2050年目標の達成を目指している。2021年になって新たに策定した温室効果ガス排出量削減目標では従来の「2.0°C」(Scope3)及び「Well Below 2.0°C」(Scope1・2)から「1.5°C」(Scope1・2・3)へと大幅に目標水準を引き上げており、国際イニシアチブのSBTiより認定を受けている(2021年6月)。
- アシックスはSBT達成に向けて2030年までのアクションプランを計画する(以下、「気候変動への対策」を参照)。Scope1・2については主として事業所での使用電力を100%再生可能エネルギーに切り替える。Scope3については一次生産委託先工場におけるエネルギー使用量を50%削減し、さらに使用電力の85%を再生可能エネルギーに切り替えていく方針だ。Scope1・2排出量の25.4倍(2020年度)に相当するScope3排出量の削減が計画の要となるが、アシックスは一次生産委託先工場などのサプライヤーとのエンゲージメントにHigg FEM<sup>6</sup>の利活用を推進しており、全サプライヤーに取り組みを広げるなどしてScope3排出量の削減を着実に進めていく考えだ。

<sup>6</sup> SAC Higg Index Facility Environmental Module (Higg FEM) は一次生産委託先工場などのサプライヤーから環境データを収集し管理するためのツール。Higg FEMを通じてCO<sub>2</sub>、エネルギー、廃棄物、水、化学物質、再生可能エネルギーの調達に関するデータをサプライヤーから収集し、エンゲージメントに活用することが可能である。

## ■ 気候変動への対策



[出所：ASICS ウェブサイトより抜粋]

## 2. SPT の設定

評価対象の「SPT の設定」は以下の観点でサステナビリティ・リンク・ボンド原則に適合している。

### (1) SPT の概要

- ・ SPT は 2025 年の CDP 気候変動でリーダーシップレベルを維持する (A-以上を維持) ことである。

### (2) SPT の野心性

#### ① SPT の野心性

- ・ CDP によれば、2020 年の「テキスタイル&ファブリック」グループでリーダーシップレベルに到達した企業は 33%であった。また平均スコアは同グループ内で B、アジア地域内で D、世界で C であった。SPT はこれらの平均的なパフォーマンスレベル対比でみても野心的な水準といえる。
- ・ アシックスの最終スコアは 2016 年から 2019 年にかけて B で横ばいに推移した後、2020 年に初めてリーダーシップレベルの A-を獲得した。CDP は気候変動対応の情報開示と実践への国際的な要請を受けて質問内容とスコアリング基準を毎年改訂 しており、その中で閾値を調整することもある。リーダーシップレベルを維持するにはアップデートされていく国際レベルのベストプラクティス に挑戦し続ける不断の改善努力を要する。

## ② SPTの達成に向けた戦略の妥当性

- ・ アシックスはSPTの達成に向けて、特に「事業戦略・財務計画」と「エネルギー」に関する取り組みを強化していく。具体的には、事業所で再生可能エネルギー由来の電力の導入比率を高めるなど、気候関連リスクと機会を踏まえた低炭素移行計画の策定及び公表に向けた検討などを進めていく。
- ・ アシックスは気候変動対応の一環として、2019年に「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」提言に賛同し、気候変動が事業に与えるリスクと機会の両面についてガバナンス・戦略・リスク管理・指標と目標の観点から情報開示を進めてきた。また2020年10月からは事業活動での使用電力を100%再生可能エネルギー化することを目指す国際イニシアチブ「RE100」に加盟し取り組みを推進してきた。アシックスはこれらの取り組みを強化し、SPTの達成を目指すとの考えだ。

## (3)SPTの妥当性

- ・ 本債券については、独立した第三者であるR&Iから「サステナビリティ・リンク・ボンド原則」(2020)への適合性についてセカンドオピニオンを取得している。

## 3. 債券の特性

評価対象の「債券の特性」は以下の観点でサステナビリティ・リンク・ボンド原則に適合している。

- ・ 本債券は2026年12月末の償還を予定しており、SPTについては2025年の実績をもって達成状況を判定する。SPTを達成できなかった場合、債券発行額の0.1%に相当する排出権(CO<sub>2</sub>削減価値をクレジット・証書化したもの)を購入する。サステナビリティ委員会または同等の会議体がSPT未達成の要因を精査したうえで排出権を選定・決定し、取締役会へ報告する。現時点の候補としては、例えばJ-クレジット、グリーン電力証書、非化石証書、I-RECが想定される。
- ・ ただし、排出権購入契約における不可抗力事項等(取引制度の規則等の変更や排出権の移転に係るシステム障害等)が発生した場合、本債券の償還までに債券発行額の0.1%相当額を寄付する。サステナビリティ委員会または同等の会議体がSPT未達成の要因を精査したうえで寄付先を選定・決定し、取締役会へ報告する。寄付先は環境保全活動を目的とする公益社団法人・公益財団法人・国際機関・自治体認定NPO法人・地方自治体やそれに準じた組織とする。
- ・ 債券の特性を定義づけるKPI、SPT、排出権購入または寄付に関する詳細は債券の訂正発行登録書及び発行登録追補書類に明記され、法的効力を有している。本債券のキャッシュフローはSPTの判定結果と連動し、アシックスの経済的インセンティブとして機能する。本債券の財務・構造的な特性は、重要課題である「気候変動への対応」に対するアシックスのコミットメントを強化している。



## 4. レポーティング

評価対象の「レポーティング」は以下の観点でサステナビリティ・リンク・ボンド原則に適合している。

- ・ アシックスは年1回、KPIの実績をSPT達成に向けた取り組みとともにウェブサイトで報告する。なお、CDPは年1回、「CDP気候変動レポート」の中で回答企業の最終スコアを開示しており、KPIの実績はCDPを通じてすべてのステークホルダーが入手可能な情報となっている。
- ・ 判定結果の報告は2026年8月末までに実施する予定である。排出権を購入する場合、排出権の候補と選定理由、購入予定額を報告に含める（寄付を実施する場合は、寄付先の名称及び選定理由、寄付額、寄付の実施予定時期を報告に含める）。
- ・ 排出権を購入した場合、統合報告書、サステナビリティレポートまたはウェブサイトにて本債券の名称とともに排出権の名称、移転日、購入額を開示する（寄付を実施した場合は寄付先の名称、寄付額、寄付の実施時期を開示する）。
- ・ 本債券の発行時点で予見し得ない状況が発生し、KPIの定義やSPTの設定を変更する必要があるが生じた場合、適時に変更事由や再計算方法を含む変更内容を開示する予定である。

## 5. 検証

評価対象の「検証」は以下の観点でサステナビリティ・リンク・ボンド原則に適合している。

- ・ 外部の第三者である格付投資情報センターはアシックスの開示内容を検証し、2026年8月末までに判定結果の検証報告書を公表する予定である。なお、CDP気候変動の最終スコアは公開情報であることから、すべてのステークホルダーにとって容易に検証が可能である。

以上

セカンドオピニオン商品は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。

セカンドオピニオンは、企業等が環境保全および社会貢献等を目的とする資金調達のために策定するフレームワークについての公的機関または民間団体等が策定する当該資金調達に関連する原則等との評価時点における適合性に対する R&I の意見です。R&I はセカンドオピニオンによって、適合性以外の事柄（債券発行がフレームワークに従っていること、資金調達の目的となるプロジェクトの実施状況等を含みます）について、何ら意見を表明するものではありません。また、セカンドオピニオンは資金調達の目的となるプロジェクトを実施することによる成果等を証明するものではなく、成果等について責任を負うものではありません。セカンドオピニオンは、いかなる意味においても、現在・過去・将来の事実の表明ではなく、またそのように解されてはならないものであるとともに、投資判断や財務に関する助言を構成するものでも、特定の証券の取得、売却又は保有等を推奨するものでもありません。セカンドオピニオンは、特定の投資家のために投資の適切性について述べるものでもありません。R&I はセカンドオピニオンを行うに際し、各投資家において、取得、売却又は保有等の対象となる各証券について自ら調査し、これを評価していただくことを前提としております。投資判断は、各投資家の自己責任の下に行われなければなりません。

R&I がセカンドオピニオンを行うに際して用いた情報は、R&I がその裁量により信頼できると判断したものではあるものの、R&I は、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。R&I は、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。

R&I は、R&I がセカンドオピニオンを行うに際して用いた情報、セカンドオピニオンの意見の誤り、脱漏、不適切性若しくは不十分性、又はこれらの情報やセカンドオピニオンの使用に起因又は関連して発生する全ての損害、損失又は費用（損害の性質如何を問わず、直接損害、間接損害、通常損害、特別損害、結果損害、補填損害、付随損害、逸失利益、非金銭的損害その他一切の損害を含むとともに、弁護士その他の専門家の費用を含むもの）について、債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何や R&I の帰責性を問わず、いかなる者に対しても何ら義務又は責任を負わないものとします。セカンドオピニオンに関する一切の権利・利益（特許権、著作権その他の知的財産権及びノウハウを含みます）は、R&I に帰属します。R&I の事前の書面による許諾無く、評価方法の全部又は一部を自己使用の目的を超えて使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）し、又は使用する目的で保管することは禁止されています。

セカンドオピニオンは、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。

**【専門性・第三者性】**

R&I は 2016 年に R&I グリーンボンドアセスメント業務を開始して以来、多数の評価実績から得られた知見を蓄積しています。2017 年から ICMA（国際資本市場協会）に事務局を置くグリーンボンド原則／ソーシャルボンド原則にオブザーバーとして加入しています。2018 年から環境省のグリーンボンド等の発行促進体制整備支援事業の発行支援者（外部レビュー部門）に登録しています。

R&I の評価方法、評価実績等については R&I のウェブサイト (<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html>) に記載しています。

R&I と資金調達者との間に利益相反が生じると考えられる資本関係及び人的関係はありません。

## サステナビリティ・リンク・ボンド 独立した外部レビューフォーム

外部レビューのガイドラインは、推奨されるテンプレートを通じた要約形式および／または全体のいずれかで外部レビューを公開することを推奨している。これは、市場の透明性に寄与し、発行体の本原則への整合性を明確にするものである。

### セクション 1. 基本情報

発行体名:株式会社アシックス

サステナビリティ・リンク・ボンドの ISIN: 株式会社アシックス第 5 回無担保社債（特定社債間限定同順位特約付）（サステナビリティ・リンク・ボンド）

発行前にセカンドオピニオンを提供した独立外部レビュー実施者名 (sections 2 & 3):  
格付投資情報センター

発行前のセカンドオピニオンの完了日:2021 年 11 月 5 日

発行後の検証を実施した独立外部レビュー実施者名 (section 4): -

発行後の検証完了日: -

発行時の債券の構造:

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 金利ステップアップ型        | <input type="checkbox"/> 変動金利型          |
| <input checked="" type="checkbox"/> 排出権購入型 | <input checked="" type="checkbox"/> 寄付型 |

### セクション 2. 発行前レビュー

#### 2-1 レビュー範囲

レビューの範囲を要約するために、必要に応じて以下の項目を利用又は改定する。

本レビューは:

- 以下の要素を全て評価(完全なレビュー)し、  一部のみ評価(部分的なレビュー)し、:

- |  |   |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> KPIs の選定 | <input checked="" type="checkbox"/> 債券の特性   |
| <input checked="" type="checkbox"/> SPTs の測定 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング |
| <input checked="" type="checkbox"/> 検証       |   |

- サステナビリティ・リンク・ボンド原則（以下、SLBP）との整合性を確認した。

## 2-2 独立した外部レビュー実施者の役割

- |   |  |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> セカンドオピニオン | <input type="checkbox"/> 認証                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 検証        | <input type="checkbox"/> スコアリング/レーティング (格付け) |

注記：複数のレビューを実施又は異なる複数のレビュー実施者が存在する場合、それぞれ別々の用紙にご記入ください。

## 2-3 レビューのエグゼクティブサマリおよび/またはレビュー全文へのリンク (該当する場合)

<セカンドオピニオン>  
フレームワークがサステナビリティ・リンク・ボンド原則 2020 に則ったものである旨のセカンドオピニオンを提供する。

詳細はレポート本文を参照。

## セクション 3. 発行前のレビュー詳細

レビュー実施者には可能な限り以下の情報を提供し、レビュー範囲を説明するためにコメントセクションを利用するよう推奨する。

### 3-1 KPIs の選定

セクションに関する全般的なコメント (該当する場合) :

レポート本文の「1. KPIs の選定」を参照。

選定した KPIs のリスト:

- ✓ CDP 気候変動の最終スコア

定義、範囲、パラメーター

- |  |                                  |
|--|----------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 選定した各 KPI の明確な定義 | <input type="checkbox"/> 明確な計算方法 |
| <input type="checkbox"/> その他:                        |                                  |

選定された KPIs の関連性、頑健性、信頼性

- |   |   |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 選定された KPIs は発行体のサステナビリティ及び事業戦略と関連性があり、中核的で重要である | <input checked="" type="checkbox"/> KPIs が外部からの検証が可能である証拠 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 選定された KPIs は一貫した方法に基づき測定可能または定量的なものである          | <input checked="" type="checkbox"/> KPIs のベンチマーク化が可能である証拠 |
|   | <input type="checkbox"/> その他:                             |

### 3-2 SPTs の設定

セクションに関する全般的なコメント (該当する場合) :

レポート本文の「2. SPTs の測定」を参照。

#### 要旨および野心の度合い

- |   |   |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> SPTs が大幅な改善に結びつく値であることの証拠         | <input checked="" type="checkbox"/> 選ばれたベンチマーク及びベースラインに関連しており信頼性がある |
| <input checked="" type="checkbox"/> SPTs が発行体のサステナビリティ及び事業戦略に合致している証拠 | <input checked="" type="checkbox"/> SPTs は事前に設定した時間軸において策定されている     |
|   | <input type="checkbox"/> その他:                                       |

#### ベンチマーク手法

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 発行体自身のパフォーマンス | <input checked="" type="checkbox"/> 同業他社     |
| <input type="checkbox"/> 科学的根拠         | <input type="checkbox"/> その他:RE100 が推奨する中間目標 |

#### 追加の開示

- |   |   |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再計算又は調整が行われる場合の説明             | <input checked="" type="checkbox"/> 発行体による達成に向けた戦略の説明 |
| <input checked="" type="checkbox"/> SPTs の達成に影響を及ぼし得る重要な要素についての説明 | <input type="checkbox"/> その他:                         |

### 3-3 債券の特性

セクションに関する全般的なコメント (該当する場合) :

レポート本文の「3. 債券の特性」を参照。

#### 財務的インパクト:

- |   |
|---|
| <input type="checkbox"/> 利率の変動  |
| <input checked="" type="checkbox"/> その他:本債券は2026年12月末の償還を予定しており、SPTについては2025年の実績をもって達成状況を判定する。SPTを達成できなかった場合、債券発行額の0.1%に相当する排出権(CO <sub>2</sub> 削減価値をクレジット・証書化したもの)を購入する。ただし、排出権購入契約における不可抗力事項等(取引制度の規則等の変更や排出権の移転に係るシステム障害等)が発生した場合、本債券の償還までに債券発行額の0.1%相当額を寄付する。 |

#### 構造的特性:

- |  |
|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> その他:債券の特性を定義づけるKPI、SPT、排出権購入または寄付に関する詳細は債券の訂正発行登録書および発行登録追補書類に明記され、法的効力を有している。本債券のキャッシュフローはSPTの判定結果と連動し、アシックスの経済的インセンティブとして機能する。本債券の財務・構造的特性は、重要課題である「気候変動への対応」に対するアシックスのコミットメントを強化している。 |
|--|



### 3-4 レポーティング

セクションに関する全般的なコメント（該当する場合）：

レポート本文の「4. レポーティング」を参照。

#### レポーティングされる情報:

- |  |   |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> KPI のパフォーマンス | <input type="checkbox"/> 検証保証報告書                        |
| <input type="checkbox"/> SPTs の野心の度合い            | <input checked="" type="checkbox"/> その他: SPT 達成に向けた取り組み |

#### 頻度:

- |   |                                |
|---|--------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 年次    | <input type="checkbox"/> 半年に一度 |
| <input type="checkbox"/> : その他 (ご記入ください): |                                |

#### 開示方法

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 財務報告書に掲載  | <input type="checkbox"/> サステナビリティ報告書に掲載            |
| <input type="checkbox"/> 臨時で発行される文書に掲載   | <input checked="" type="checkbox"/> その他: ウェブサイトで開示 |
| <input type="checkbox"/> レポーティングは外部レビュー済（該当する場合は、レポートのどの部分が外部レビューの対象であるか明記してください）： |  |

該当する場合は、「有益なリンク」のセクションに、報告書の名称、発行日を明記してください。

#### レポーティングにおける保証レベル

- |                                |                                |
|--------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 限定的保証 | <input type="checkbox"/> 合理的保証 |
|                                | <input type="checkbox"/> その他:  |

#### 有益なリンク（例えば、レビュー実施者の評価方法や実績、発行体の文書等。）

## セクション 4. 発行後の検証

セクションに関する全般的なコメント (該当する場合) :

レポート本文の「5. 検証」を参照。

### レポートニングされる情報:

- |                                |  |
|--------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 限定的保証 | <input type="checkbox"/> 合理的保証           |
|                                | <input checked="" type="checkbox"/> その他: |

### 頻度:

- |   |                                |
|---|--------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 年次  | <input type="checkbox"/> 半年に一度 |
| <input type="checkbox"/> その他 (ご記入ください): |                                |

### 重大な変更:

- |  |   |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 対象範囲     | <input checked="" type="checkbox"/> KPI の測定方法 |
| <input checked="" type="checkbox"/> SPTs の設定 |   |